

キャップ1万個 駅ナカアート

JR
本竜野

回収したペットボトルのキャップ約1万個で制作した巨大なキャップアート(縦2桁、横8桁)が、たつの市龍野町のJR姫新線・本竜野駅2階にお目見えした。同市出身の作詞家・三木露風の童謡「赤とんぼ」にちなみ、赤トンボが舞う紅葉に彩られた街を列車が走る風景を表現。キャップは再資源化し、収益は海外の子どものワクチン接種費に充てる。12月1日まで。

龍野商工会議所青年部が、姫新線の利用促進やキャップのリサイクル推進を目的に企画。市内の小学校や会員企業に協力を呼び掛けたほか、ス

ーパーや商議所に回収箱を置き、7~10月に約70万個を集めた。

デザインは県立龍野北高の生徒が担当し、市内の児童42人が発砲スチロール製のパネルに赤や緑など14色のキャップ1万816個をはめ込んで制作した。紅葉や姫新線の列車の風景に加え、「ようこそたつのへ」の文字を浮かせさせた。

集まったキャップは横浜市内のNPO法人を通じて、ポリオやはしかのワクチン代に替えられ、ミャンマーやラオスの子どもの支援に充てられる。同NPOによると、キャップ約860個がポリオワクチン1人分に相当するという。

同NPO青年部研修交流委員会の岡本真一委員長(42)は「市民の協力で集まったキャップが子どもの命を救う力になれば」と話した。

ペットボトルのキャップで描かれた巨大なキャップアート(たつの市のJR本竜野駅で)

